

市埋蔵文化財センター

☎ 23-8020

15

どきどき  
たいむとらべらー



### 縄文人の暮らしと服

人々が糸をつむいで布を作り始めたのは、弥生時代に入ってからとされていましたが、近年では日本各地の縄文遺跡から、植物の繊維を編んだ布の切れはしが発見されています。これらはもじり編みという、タテ糸にヨコ糸をからませて編む方法で作られており、この布のことをアンギン（編布）といっています。アンギンは、日本で一番古い布だとされ、カラムシ、麻、イグサ、フジや葛などの木の皮やつる、茎などを材料として作られていました。

縄文人は、このアンギンの布を作り、骨やキバなどで作った針でぬい合わせ、貫頭衣という簡単な服を作り、着

ていました。アンギンだけでなく、狩りでしとめた動物の毛皮は丈夫で暖かいので、服だけでなく靴などに使われていました。

また縄文人は、耳飾り・うで輪・首飾りなど、色々な装身具を身につけていましたが、縄文人にとつての装身具は、ただの飾りではなく、祈りやその人の身分など、特別な意味が込められていました。

縄文人がどんな服を着ていたのか予想できるのが、土偶です。土偶は、色々な遺跡からたくさん出土していますが、その形や刻まれた服の模様などを見てみると、ベルトをしたりポシェットを肩からさげた土偶、おへそを出した土偶など、色々な服装の土偶がいます。

縄文人は、東京ガールズコレクションもびつくりな、個性的なおしゃれさなんだったのです。



縄文人は、とってもおしゃれさん。現代でも通用しそうなファッションです



## こみゆにTeaたいむ

24秋目

### 地域で八戸街道の一里塚まで歩く

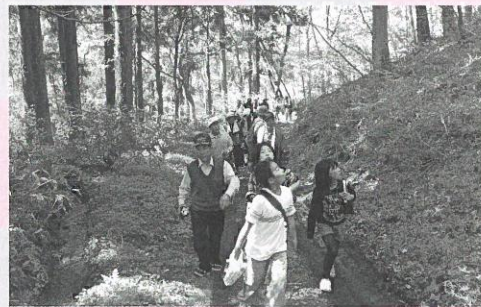
現在、江戸時代の参勤交代が行われた旧街道を、歴史と文化に触れながらゆっくりと歩くことがブームとなっています。市内には東京から青森県三厩<sup>みんまや</sup>までを結ぶ奥州街道と、堀野で分岐し八戸までの八戸街道（上り街道）があります。八戸街道は、ほとんどの一里塚が残っている貴重な街道です。市内には堀野と本新田の一里塚が残っています。

5月5日に大段公民館（佐藤純館長）主催の「旧八戸街道散策（宝探し）と花見の会」が開催されました。八戸街道は仁左平地区を縦断し猿越峠を経て八戸へ向かいますが、今回は地元の40人が参加者し、大段の琴毘羅神社から本新田の一里塚までの約2<sup>き</sup>を2時間かけて往復しました。途中の久保の石碑群や、仁左平に居を構えていた蝦夷のイカコなどの説明を受けながら本新田の一里塚に向かいました。一里塚は左右一対が現存しています。

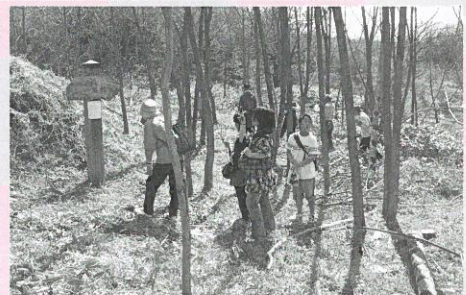
参加者からは「地元に住みながら地域の歴史や宝について知らなかった。参加して良かった」という声が

聞かれました。

市内には旧街道の遺産である追分石や一里塚、明治天皇巡幸の碑、御前水などが残されています。昔の生活を思いながら、これらの地域の宝めぐりはいかがでしょうか。



（上）（下）5月5日に行われた「旧八戸街道散策（宝探し）と花見の会」の様子



この欄の問い合わせは、市地域づくり推進課（内線 651）まで